



ディスタンスインサイトプロジェクト

ディスタンスインサイトプロジェクトからの結論

ゴルフにおける飛距離の影響

2020 年 2 月 4 日

※参考までの和訳となり、解釈について疑義が生じる場合は原文が優先します。

I. 概要

世界中で適用される単一セットのプレーと用具の規則を所管している統轄団体として、USGA と R&A はゴルフが将来にわたって長く繁栄できるようにゴルフの本質的な挑戦と特徴を定義し、保護していくことに責任を負っています。私たちは自然環境の中、屋外でプレーされ、技術革新と社会変化に大きく影響されるスポーツに生じる多くの状況に対処するために継続的に規則を進化させ、近代化させます。その際、ゴルフは同じ規則に基づき、同じコースで、すべてのレベルのゴルファーによってプレーされる、技量と挑戦が必要な楽しめるゲームであるというコア原則を常に尊重し、強化することが私たちの目標です。

ゴルフ規則では「ゴルフはその成功がプレーヤーの判断力、技術、能力によって決まる挑戦するゲームである」とその基本理念を規定しています。同様に、用具規則でも「ゴルフの伝統を守り、ゴルフの練習や技量よりも製造技術の進歩に過度に依存しすぎることを防ぎ、ゴルフゲーム全般にわたって技量の差を残すようにすること」を求めています。球をティーから最も少ない打数でホールに入れることの成功は、ひとつあるいは少数の要因が優位に影響して決まるのではなく、多くの異なる技量や判断を使うことによって決まるべきであるということがゴルフの永続的な基盤です。私たちの見解では、コースの全長を伸ばし続ける必要なしに、世界中の多様なゴルフコースでのプレーでこの基盤に忠実であり続けることが絶対に必要です。

「2002 年 R&A/USGA 飛距離についての原則の共同声明」に反映されているように、飛距離の問題は極めて重要な問題を取り上げています。

「最高レベルでのさらなる飛距離の著しい増加は望ましくないと考えます。そうした飛距離の増加が、進化する用具技術、プレーヤーの競技意識の向上、プレーヤー指導の向上、ゴルフコース状態の向上によって生じているのか、あるいはそうした要因あるいは別の要因の組み合わせにより生じているのかにかかわらず、ゲームの「挑戦」という要素を著しく減じる影響を及ぼすことでしょう。その結果として起こるコースの拡張や、難易度を上げるといったことは費用がかかるか不可能であり、ますます重要性を増している環境や生態系の問題に悪影響を及ぼすことでしょう。プレーのペースは遅くなり、プレー費も高くなるでしょう。」

その時以来、最高レベルでの飛距離は伸び続けてきました。さらに、下記で説明するように 1 世紀超にわたり飛距離が伸びていく継続的な傾向があり、その上昇傾向は将来も続くことが予想されています。

今日、私たちはゴルフの持続可能な未来を支持するため、過去、現在、未来の飛距離の影響の包括的な理解を提供するディスタンスインサイトプロジェクトレポート（「ディスタンスインサイトレポート」あるいは「DIR」）を発行します。この文書にはディスタンスインサイトレポートを添付しており、このプロジェクトについての私たちの結論を述べています。下記のパート I は私たちの結論を要約した概要を述べており、私たちが計画する次のステップを提示しています。次に、パート II はそうした結論の背景や理由をより詳細に説明しています。

A. 結論の要約

ディスタンスインサイトレポートの研究は 100 年超にわたって飛距離とゴルフコースの全長が伸びてきたことを示しています。この継続的な増加のサイクルは 2 つの主要な理由から望ましくなく、ゴルフの長期的未来に弊害をもたらすと私たちは考えます：

まず、多くのゴルフコースに固有の戦略的な挑戦は、特に最も距離の長いティーからプレーするゴルファーの飛距離の増加に対応するためのコースの全長が十分ではない（あるいはコースの全長を十分に伸ばすことができない）場合には、損なわれる恐れがあります。

- 飛距離の増加は、正確性やその他の技量を犠牲にして飛距離の重要性をより重視する原因となる可能性があることと同様に、そうしたコースで必要とされるショットの種類の多様性、距離、創造性を減じ、ホールがより頻繁に飛距離によって圧倒される原因となる可能性があります。
- そのことは、ゴルフの挑戦はラウンド中に多様な技量を使い、リスク/報酬の判断を行うことであるというコア原理を弱体化させ始める可能性があります。
- 一般に有名なコースとあまり知られていないコースの両方で、最も距離の長いティーからプレーするゴルファーにとって、挑戦の要素が損なわれてしまう、あるいは最終的に陳腐化してしまう危険性があるコースの数の増加をもたらします。ゲームにとって深刻な損失です。

次に、ゴルフコースがより長くなりつつあるという全体的な傾向には、最終的にはすべてのレベルのゴルファーとこのゲーム全体に影響する独自の悪影響があります。

- 既存のコースを拡張することや、より長い新しいコースを作ることは、多くの場合、相当な資本投資とより高額な年間運営費を必要とします。
- 全般的に見れば、「より長いコースへ」という傾向はゴルフを水、化学薬品、その他の資源の使用についての社会的な関心の高まり、開発規制と別の土地利用への重圧、そして気候と自然環境の変化の長期的な影響を緩和する必要性と相容れない状態にしまいます。

私たちの見解では、こうした継続的な傾向は「ゴルファーの新しい世代は以前の世代よりもゴルフボールをより遠くに飛ばすだろう」という表面的な期待を込めて、不必要なほどに飛距離への重視を生み出すことも助長してきました。ゴルファーの飛距離は基本的にホールの長さや自分が対戦する相手の飛距離と相対的なものです；ゴルフの本質的特性と技量の挑戦は絶対的なゴルフのショットの距離やゴルフコースの長さによるものではなく、飛距離やコースの全長が伸びる度にゴルフがより良いゲームにはなることはないと考えます。

この相対的な飛距離の概念は、非エリートレベルのプレーでは別の影響があります。多くのレクリエーションゴルファーは必要以上により距離の長いティーからプレーしており、そのことによってプレー時間も長くしていると私たちは考えます。多くのコースのフォワードティーは、そのティーからプレーする多くのゴルファーの飛距離に対してとても距離が長いということを私たちは特に気にしています。

要約すれば、増加の一途をたどる飛距離とコースの全長の継続的なサイクルに終止符を打つことができれば、今後数十年にわたって、またその後もゴルフは最もよく繁栄すると私たちは考えます。増加する飛距離、より長いコース、より距離の長いティーからプレーすること、そしてより長いプレー時間はゴルフを間違った方向へと向かわせており、将来にゴルフを挑戦しがいがあり、楽しめる、また持続可能なものとするために必要ではありません。この結論に至り、ゴルフの長期的な将来にとって最大の利益となるように飛距離の方向性と影響を修正するための措置を講じる一方で、現在のゲームの長所を基にさらに強化することを目標とした将来を考慮することが私たちの活動の中心です。

B. 次のステップ

私たちの次のステップは、それが多くの問題、視点、利害が関与する難しい問題であると認めた上で、そうした目標を追求していくために可能な将来の解決策を見つけ、評価することになります。能力を向上させたいという願望はこのゲームに不可欠であり、奨励されることであるので、この評価が飛距離の増加の一因となっているアスレティスィズム（運動能力の技量）やスイング技術の向上などのプレーヤーに関連する要因に焦点を当てるべきではないということも私たちは認識しています。その結果、研究と評価の主要なトピックはコースデザイン、コースコンディション、コースセットアップが飛距離へ与える影響のさらなる調査と共に、用具規則の変更の可能性となると私たちは見込んでいます。

この背景を念頭に置いて、私たちのエキップメントスタンダードチームと委員会は飛距離に関連するこうした問題に対処するためのあらゆる選択肢を理解し、評価するために、クラブと球の両方の幅広い見直しを行います。考慮され得るトピックの範囲を限定せず、この見直しは下記を含むことが見込まれます。

1. 飛距離を減じる結果となることを意図したクラブおよび/または球の使用を特定することになるローカルルールの選択肢を使う可能性を私たちは評価します。この概念では、飛距離を減じた仕様の特定のセットに適った用具（例えば、遠くに飛ばない球や球を遠くに飛ばせないクラブ）が、規則に適合する用具という全体の区分の中における規定されたサブセットとなるかもしれないということです。このことは、ゴルフ競技を行う、あるいは個々のコースを所管する委員会が、ゴルフ規則に基づいて承認されたローカルルールによって、そうした飛距離を減じた用具を使用することを要求するかどうか、いつ要求するのかが選択することを認めることができるようになります。そうしたローカルルールの選択肢は、すべてのレベルのプレーで利用可能となり得ますし、競技会でプレーする以外のゴルファーも自分たちでその選択を行う選択権を持つことが可能です。

2. 私たちは飛距離に直接的/間接的の両方で影響する仕様を含め、クラブと球の両方について全体的な適合性の仕様の見直しも行います。この見直しの本来の目的は、継続する飛距離の増加を和らげる支援のために既存の仕様を調整すべきなのか、新しい仕様を設けるべきなのかどうかを検討することです。現在、飛距離を大幅に減じさせることになるような方法ですべてのレベルのゲームの全体的な仕様の修正を検討するつもりはありません。

この文書は、用具規則制定手続きに基づき、用具製造業者にこの全般的な「関心のある分野」を通知することです。そのことは、私たちは用具規則の変更をもたらす可能性のある研究トピックを特定していますが、今日現在で提案は出されていないことを意味します。上記で特定された目標を達成する支援と

なるための「用具による選択肢」に関して、私たちは製造業者やゴルフコミュニティのその他の利害関係者からのインプットを求めます。そのインプットを円滑に進めるため、45日以内に、私たちはより具体的な研究トピックのセットを公表します。インプットを収集するという重要なステップには少なくとも9～12ヵ月かかることが見込まれます。研究が終了し、コメントが評価された後で、もし私たちが規則変更の提案を行うと決定した場合、製造業者はそうした変更の提案（施行計画案を含む）の告知を受け取り、「用具規則制定手続き」に基づいてコメントする機会を得ます。規則変更案が最終決定されるまでの過程でこのステップに割り当てられる時間はその提案の性質によることでしょう。

私たちはいくつかその他のトピックについても追求するつもりであり、下記を含みます：

- 飛距離制限に関する有効性を確認するための用具テスト過程、プロトコル、基準の見直し。
- ゴルフコースのデザイン、農学、管理とセットアップがどのように飛距離に影響し得るのかについての評価とガイダンスの提供。そして、
- 十分に短いフォワードティーの有用性とすべてのレベルのゴルファーのティーからホールまでの適切なプレー距離についての評価とガイダンスの提供。

私たちが上記で特定したすべてのステップを進める際にゴルフ界全般の利害関係者からのインプットに対してオープンであり続けることから、最終的に作られる提案が完全に通知されることになるでしょう。

II. 結論の背景と説明

A. 飛距離増加の長期的な傾向と将来

ディスタンスインサイトレポートでは100年超にわたって飛距離が増加してきたことを示しています。こうした増加は2つの主な方法で生じました：(1)主要な用具革新の時に生じた顕著な上向きの増加；そして、(2)斬新的な用具の改良、ゴルファーのアスレティスイズムと手腕、そして飛距離に影響を与えるコースコンディションを含む様々な要因の結果から生じた、全体的には緩やかであるが、長期的に持続する増加。

この長期的な影響は、最も多くの情報が利用できるプレーヤーグループである高い技量の男性ゴルファー（便宜上、高い技量のアマチュアとプロフェッショナルは「エリート」ゴルファーと呼ばれる）のドライビング距離を見直すことで最もよく説明されています。過去40～50年の間、多くのデータ点はプロフェッショナルツアーで体系的に毎年計測されてきたという一方で、初期のレポートは個人の飛距離や推定平均飛距離を反映している傾向があるため、時代ごとの情報は必ずしも直接比較できるわけではありません。しかしながら、全般的な記録は、1900年からこうしたゴルファーについて飛距離が増加し続けてきたことを裏付ける相対的に大きな明らかな変化を示しています。

- **1900年頃～1930年頃**：新しいラバーコアボールが幅広く採用されたことを受けて、この期間に飛距離は大幅に増加しました¹。同時期に存在したレポートでは、1930年代までにはエリートゴルファーの典型的なドライビング距離は一般に220-260ヤードの範囲（伝えられている彼らのロ

ングドライブは 270-290 ヤードの距離)であったのに対し、新しい球が使われるようになる前のエリートゴルファーの典型的なドライビング距離は一般に 160-200 ヤードの範囲(伝えられている彼らのロングドライブは 200-220 ヤードの距離)であったことを示しています²。

- **1930 年頃～1990 年代中期**：この数十年間、用具の改良はより漸進的であり、飛距離はゆっくりと増加していきました³。1995 年までに、PGA ツアー(当時、飛距離を計測していた唯一のツアー)のロングヒッター上位 20 名の平均ドライビング距離は 278 ヤードとなり、ツアーの平均ドライビング距離は 263 ヤードでした⁴。
- **1990 年代中期～2003 年**：クラブデザイン(大型チタンドライバー、スプリング効果、大きい慣性モーメントなど)と球のデザイン(特に、非糸巻きの多層構造ボール)の両方において最先端の革新が起きたこの期間には、より大きな飛距離の増加が生じました⁵。2003 年までに、ヨーロピアンツアーと PGA ツアーの両方において、ロングヒッター上位 20 名の平均ドライビング距離は 303 ヤードとなり、両方のツアーを合算した平均ドライビング距離は 286 ヤードでした⁶。
- **2003 年～2019 年** 2019 年末までに、ヨーロピアンツアーと PGA ツアーの両方において、ロングヒッター上位 20 名の平均ドライビング距離は 310 ヤードに伸び、両方のツアーを合算した平均ドライビング距離は 294 ヤードに伸びました⁷。最初の 10 年間に本質的な増加がなかった後、2013 年以降、こうした飛距離はおよそ 1 年に約 1 ヤードの割合で増加してきており、上位 20 名の平均は 8 ヤード伸び、両方のツアーのすべてのプレーヤーの平均は 7 ヤード伸びました⁸。

ゴルファーの他のグループについての歴史的な情報は入手にくいものの、ディスタンスインサイトレポートではそうしたゴルファーのドライビング距離もまた長期間にわたって増加してきたことを示しています。例えば、現在の LPGA ツアーの平均的なプレーヤーは 250 ヤードを超えて球を飛ばし、ロングヒッター上位 20 名の平均は 270 ヤードを超える一方で、1930 年の女性エリートゴルファーの典型的なドライビング距離は伝えられるところによると 175-225 ヤードでした。非エリートゴルファー(便宜上、このグループは「レクリエーション」ゴルファーと呼ばれる)のドライビング距離もまた長期間にわたって増加してきました:1930 年頃の典型的な範囲である 130-180 ヤードと比べて、現在の男性レクリエーションゴルファーの平均ドライビング距離は 185-240 ヤードの範囲です。そして、1930 年頃の典型的な範囲である 100-150 ヤードと比べて、現在の女性レクリエーションゴルファーの平均ドライビング距離は 145-160 ヤードです。最後に、歴史的な情報はドライビング距離に注視している一方で、ドライバー以外のクラブの飛距離もまた増加してきたことも認識されています。

飛距離の増加は、特にエリートアマチュアやプロフェッショナルゴルファーについて、こうした過去の飛距離増加に組み合わさって寄与してきたものと同じ要因に基づき将来もおそらく継続すると私たちは考えます。

用具の革新：飛距離を制限しようとする用具規則の仕様があるにもかかわらず、より長いシャフトを使用することなどによって既存の規則の範囲内であってもさらなる飛距離の増加が生じる可能性があり、飛距離をより生み出すためのスイング技術やフィッティング技術の向上と共にクラブと球のデザインは進化を続けると私たちは考えます。全般的に見れば、飛距離に関する多くの特許申請が提出され続けて

いることに反映されているように、製造業者はクラブと球からより飛距離を求めるための革新を続けます。

プレーヤーの改善：プレーヤーはさらなる飛距離をもたらすことにつながる様々な方法で改善を追求し、達成することを見込めます。

- 多くのゴルファーは、他のスポーツのアスリートと同様に自分たちのパフォーマンスを向上させ、より飛距離を生み出す支援とするために、強さ、柔軟性、そして総合的な健康とフィットネスに注視し続けます。科学と医学の継続的な進化を通じた人間の運動能力のさらなる向上についての可能性も存在しています。
- 修正したスイング技術と共に、そうしたアスレティシズムの向上は飛距離がさらに伸びる原因となるより速いスイングスピードやボールスピードをもたらすことを助長してきており、そのことは継続する余地があります。可能性があることの一例として、ロングドライブコンテストの競技者は、現在の規則に適合する用具で **145mph** を超えるスイングスピード、**215mph** を超えるボールスピード、そして **400** ヤードを超えるドライビング距離を発生させる能力があります⁹。
- より一般的に、ローンチモニターと先進技術はすべてのレベルのゴルファーにスイングスピード、打ち出し角度、スピンレート、ボールスピードなどの飛距離に関連するスイングパラメーターを最適化する支援となる即座のフィードバックを提供します。また、多くのスポーツと同じく、データ分析の使用の増加がゴルファーの戦略に影響を与えており、たとえ正確性を犠牲にしたとしてもできるだけ球を遠くに飛ばすことが最も有利な戦略であり得るとプレーヤーは結論付けています。

コースコンディション：コースコンディションによる飛距離への影響は、芝、気候、自然環境の違いがあるため、また農学的なコンディションやセッティングへの全般的な手法の決定はコースを所管する各委員会次第であることから、地域ごと、またコースごとに変わり得ます。しかし、将来にさらにより多くのコースで用いられるであろうと私たちが考え、その重要度が増していく履行のひとつとして、水と栄養素の使用を減じた結果として管理される芝の区域はより乾燥してより硬くなるということです。

要約すれば、こうしたいくつかの要因が組み合わさって機能することに基づき、飛距離の上昇傾向は継続すると私たちは考えます。学問、科学技術は数えきれない人間の努力を超え、以前には到達不可能であったレベルまで加速を続けます。そのことは多くのスポーツに影響しており、ゴルフも例外ではありません。次の革新や技術的な進歩—用具、プレー戦略、スイング技術、人間の能力—を正確に予測すること難しいものの、歴史と経験はそうしたことは起きる、そして過去 **120** 年間に起きたように飛距離の増加は継続するということを教えてください。

このプロジェクトの長期の視点では、それが徐々に生じるのか、より大きく増加する期間があるのかにかかわらず、飛距離の増加は長い時間をかけて現実の結果となっていることも強調しています。例えば、ディスタンスインサイトレポートに反映されているように、**1980～2019** 年までの PGA ツアー（こ

の時期まで遡ったデータがある唯一のツアー) のドライビング距離の年間平均増加率は約 1 ヤード、そして 2003~2019 年までの PGA ツアーとヨーロッパツアーを合算したドライビング距離の年間平均増加率は約 0.5 ヤードでした。そうした増加率が長い期間に意味し得ることの分かりやすい説明として、男性エリートゴルファーの飛距離が年間平均約 0.5-1 ヤード増え続けるとしたら、累積的影響は相当なものです：現在の 300 ヤードドライブが、今後 25 年で 312.5-325 ヤードとなり、50 年後には 325-350 ヤードとなります。私たちは具体的な増加量の予測はしていませんが、飛距離の年度ごとの変化ではなく、長期的な累積増加はこのゲームの将来にとって問題であるということを知りやすく説明しています。

飛距離の増加傾向が継続することは、時間と共に 2 つの望ましくない結果の原因となっていくと私たちは考えます：(1) 過去にプレーした同じ長さのコースをプレーするとき、最も飛距離があるゴルファーにとって技量の挑戦が変化します；そして、(2) 多くのゴルフコースは飛距離の増加を相殺するためにより長くなり続けます。下記のパート B とパート C では、こうした 2 つの結果の影響をそれぞれに議論しています。

B. より長くはならないゴルフコースでの飛距離増加の影響

ゴルフの挑戦の根幹は、球をティーからグリーン、ホールへと運ぶためにプレーヤーが多様な技量を発揮しなければならないことに由来します。このスポーツの世界中で合計 30,000 のコースはゴルファーに卓越したプレー体験の多様性（レイアウト、地勢、風や天候、芝のコンディション、フェアウェイの幅、ラフの長さ、バンカーの砂やデザイン、そしてパッティンググリーンのデザインやスピードにおける幅広いバリエーション）を提供しています。その統一原理は、ティーショット、距離の長い/短いアプローチショット、バンカーショット、ピッチング、チップング、パッティング、そして様々なリカバリーショットについて、ゴルファーの技量と 14 本の異なるクラブの中から選択する判断によって成功は決まるべきであるということです。このことは、飛距離を出すこと、飛距離のコントロール、正確性、ショットを曲げること、弾道、スピン、跳ね返りや転がり、あらゆる種類のライからプレーする方法など、多くの技量の要素を含みます。プレーヤーは自分のスタイル、難易度、リスクと報酬の可能性によって異なる多くの選択肢の中から、どのようなショットをプレーするのかについて繰り返し戦略的な選択をするときには、自分の想像力と判断力を使う必要があります。この幅広い技量を発揮するための挑戦にさらされることはゴルフの本質的特性の一部であり、人によって大きく異なる能力や相対的な強さ/弱さを持つプレーヤーたちが競い合い、成功するチャンスを与えています。

プレーヤーの飛距離との関連で、ホールをプレーする長さはこの基本的な挑戦の主要な土台です。1 世紀超にわたり、ほとんどすべてのフルレングスのゴルフコースでは、パー 3、パー 4、パー 5 のホールの組み合わせを提供しており、プレーヤーは良いショットをプレーすれば、ティーからそれぞれ 1 打、2 打、3 打で通常はグリーンを捉えることができ、それから 2 パット以下でのホールアウトを試みます。コースにはパーの各レベルに対して様々な長さのホールがあり、ゴルファーが良いプレーをしたストロークでグリーンに規定打数で到達（パーオン）することが比較的容易であったり、困難であったりするでしょうし、1 打でグリーンを捉える可能性のあるドライバブルなパー 4 や、2 打でグリーンを捉えることが可能なパー 5 などのバリエーションがあります。こうしたホールの長さの確立された指標は、球を

遠くに正確にプレーし、距離の長いアプローチショットのために様々なクラブを使う能力をテストするために十分に長いホールをプレーすることを含め、プレーヤーが様々な距離やコンディションからあらゆるショットの種類をプレーするために 14 本のクラブのほとんど、あるいはすべてを使う際に多くの技量を誇示する意欲をかき立てます。

飛距離、ホールの長さ、そして技量とゲームの挑戦の本質的な関係はすべてのレベルのプレーに適用されます。複数のティーイングエリアを使用すれば、球をどれだけ遠くに飛ばせるのかを含め、自分自身の能力に準じてコースをプレーすることができる幅広いゴルファーを各コースで遇することができるようになります。そうしたゴルファーは、最もチャレンジングなチャンピオンシップコースであったとしてもプレーすることができ、彼らにとっての適切な長さのコースで様々な種類のショットをプレーするという本質的に同じプレー体験と挑戦を享受することができます。

飛距離とコースでプレーする長さには直接的な関係があります：プレーするホールの長さが変わらない一方で、全般的な飛距離が著しく増加する場合、所定のティーからプレーするときにゴルファーに与えられる挑戦の特性は必然的に影響を受けます。かなり後ろにあるバックティーからプレーしない人たちは、たいていの場合、望むのであればそのコースの別のティーからプレーすることで対応することができます。しかしながら、すでに最も距離の長い後ろのティーからプレーしているゴルファーにその選択肢は利用できません。そのことについてのゴルフにおける長期的な対応は、より長いコースを作ること、または既存のコースの距離を伸ばして改造することで飛距離の増加に対応し、相殺することでした。しかし、様々な理由—経済的、規制上の制約、さらなる土地が利用できない、コースのデザイン特性を維持したいという願望など—により、多くのコースは飛距離の増加に応じて実質的により長くなっていないか、コースを長くし続けることができません。しかも、さらなる飛距離増加に対応したり、予期することを試みるコースであっても、彼らの努力はロングヒッターたちに対応するには十分ではないと大抵は気づきます。

したがって、最も距離の長いティーからプレーするゴルファーにとって、そうしたコースとその個々のホールに固有の戦略的な挑戦がいつか損なわれる恐れがあります：

- ホールをプレーする距離が相対的に短くなっていくと、ゴルファーはよりロフトの大きなクラブでアプローチショットをプレーしたり、ティーショットでより短い番手のクラブを使うことがより頻繁にできるようになり、そのことは規定打数でグリーンを捉えることや、フェアウェイを捉えることを以前よりも容易にする可能性があります。
- バンカー、ドッグレッグ、標高変化、またホールで戦略上の障害となることを意図したその他の特徴は、より容易に避けることができるようになるか、プレーとは関係なくなり、創造的なリカバリーショットやリスク/報酬の選択の必要性を減じます。
- 全般的に見れば、ドライバーの飛距離の増加は一部のホールを効果的にパワーで圧倒することを可能とし、正確性や長年にわたって確立されてきたその他の技量を犠牲にして、完全に距離だけを重視することに報いることになります。

こうした影響はホールによって異なり、一部のホールでは飛距離が伸びていくことで新しい障害がプレーに影響してきたり、異なるリスク/報酬の選択を作り出すかもしれません。しかし、コースのすべてのホールで相対的なプレー距離が短くなることの全体的な効果は、以前には必要とされた特定のショットの種類の必要性を徐々に減じることになります。そのことがロングヒッターに有利となるのか、単にすべてのプレーヤーがバックティーからプレーすることができる方法を変えるだけなのかにかかわらず、最も重要な点は、コースを長くできないゴルフコースで飛距離の増加が継続することは最終的にゴルフを異なるゲーム、今よりも多次元ではないゲームへと向かわせる原因となり得るということです。人がどれだけ遠くに球を打てるようになるだろうが、どのティーでプレーしようが、幅広く、バランスの取れたプレーの技量のセットがゴルフにおける成功の主要な決定要素であり続けるべきであると私たちは考えます。

こうした懸念を特定することは、飛距離がゴルフにおいて価値のある技量であるということに疑問を投げかけるものでは決してありません。このゲームのすべてのレベルで、プレーヤーがどれだけ遠くに球を打つことができるのかは、成功を決定するために常に重要な要因となります。問題は、飛距離という技量がゴルフのその他の重要な技量に影を落とす方向に向かっているのではないかということです—例えば、たとえコースが長くなり続けても、ドライビング距離は過去よりも成功により重要となっている可能性があることを示しているツアーデータが示唆しているように。結局のところ、ホールの長さ、パー、そしてプレーの難易度、スコア、そして特定のコースで成功するために必要となる技量に影響を与えるその他のセットアップパラメーターの決定は、競技会を運営したり、コースを所管する人たち次第となります。統括団体としての私たちの役割は、そうした個々の決定を行うのではなく、ゴルフコースの長さを伸ばし続けることなしに、委員会が幅広いすべての選択肢を利用できるようにすることです。

飛距離が伸びていくことは、結局のところゴルフが男性のエリート競技でプレーされる場合に深刻な影響を与える可能性があります、このゲームはすでにそのことが起き始めていることを目にしています。以前は最も高いレベルの競技を開催していたコースが、その距離が十分ではないとみなされることで、そうした競技をもはや開催できないことは残念なことです。将来にはさらに差し迫って、より多くの世界中の有名コースが、コースの長さを大きく伸ばすことは実際的ではないので、同様の危機に直面することでしょう。そうしたコースではその他のコースコンディションを調整することで挑戦を保持することを試みるかもしれませんが、それは与えられたコースの特徴やデザインのインテグリティの範囲でのみ可能であり、いずれにしても最終的に飛距離の増加にはやはり手も足も出なくなる可能性があります。

高いレベルのアマチュアやプロフェッショナル競技のためにより長いコースが必要とされる傾向は強固で継続的でした。ディスタンスインサイトレポートでは、世界中のそうした多くのイベントのプレー距離は過去数十年間で数百ヤード増えており、男性アマチュアやプロフェッショナルのトーナメントは現在 7,000 ヤード以上で通常プレーされていることを示しています。そのようなコースの長さの増加があったとしても、そのプレー距離は時として現在の最高レベルの男性ゴルファーにとっては依然として短すぎる可能性があります。さらに、現在、プレミアイベントを運営することができるゴルフコースの能力は、必ずしも将来にその能力を維持し続けられることを意味してはいません。

この問題は、男性アマチュアやプロフェッショナルの最も高いレベルの競技会を開催することを望む世界中のゴルフコースだけではなく、ゴルフボールを遠くまで飛ばすことができる非エリートのゴルファ

ーがプレーするコースにも拡大します。多くのコースは 7,000 ヤード以上に拡大することができないか、そうしようとはせず、ロングヒッターのゴルファーに完全な挑戦を与える能力を最終的に失うかもしれないという懸念へとつながります。例えば、6,000~6,500 ヤードのコースにとって、問題は男性エリートイベントを開催できないことではなく、最も距離の長いティーからプレーしてもコースが短すぎると思うようになるかもしれないゴルファーを魅了して、つなぎとめる能力を潜在的に失うかもしれないということです。一般に有名ではなく、プレミアトーナメントで使われなかったとしても、そうしたコースは地元のゴルファーやコミュニティには高く評価され得ますし、飛距離の増加の危険にさらされます。

C. ゴルフコースをより長くする継続的な傾向の影響

それには様々な要因が関与しているという一方で、コースの長さの大きな増加は新しいラバーコアボールが 1900 年代に広く普及するようになった後に生じたことで説明されるように、その主な理由は飛距離の増加に対応するためでした¹⁰。この傾向は下記のおよその期間におけるアメリカ合衆国のゴルフコースの長さの歴史的な進化（多くのデータが存在するコースについてのデータセット）を見直すことで説明することが可能です。

- **1900 年頃～1930 年代頃：**1900 年頃、18 ホールのコースの長さの平均と中央値は 5,400-5,500 ヤードの範囲であり、コースの長さの 90 パーセンタイルは 6,100 ヤードでした。次の 30 年間に、コースの長さの平均は年間 20 ヤードを超える率で増加しました。1930 年代までに、コースの長さの平均と中央値は約 6,200-6,300 ヤードとなり、コースの長さの 90 パーセンタイルは 6,600 ヤードでした¹¹。
- **1930 年代頃～1990 年代頃：**この数十年間に年間 6 ヤードを超える率でコースの長さの平均は増加しました。1990 年代までに、コースの長さの平均と中央値は約 6,600～6,700 ヤードとなり、コースの長さの 90 パーセンタイルは約 7,100 ヤードでした¹²。
- **1990 年代頃～2010 年代頃：**コースの長さの平均は全体で年間約 5 ヤードの率で伸び続けました。2010 年代までに、コースの長さの平均と中央値は約 6,700～6,800 ヤードとなり、コースの長さの 90 パーセンタイルは約 7,200 ヤードでした¹³。

飛距離の増加が続くのであれば、コースがより長くなっていくというこの全体的な傾向は継続しそうであると私たちは考えます。もちろん、世界中の一部のコースは実質的に長くなっておらず、今後もその必要性を認識しないかもしれませんし、コースの長さを伸ばすことができないかもしれません。しかしながら、全般的には、飛距離が増加し続けていることは多くのコースがより長くなることへのプレッシャーを生み出し続けます。近年、2008 年の世界的な景気後退を受けてコース建設が減少した後、新しいコースとコース改修の両方において、コースの長さが引き続き重視されてきました。例えば、アメリカ国内で 2011～2016 年に開場した新しいコースの研究では、検証された 48 のコースについて 18 ホールの平均の長さが 6,900 ヤードを超えており（2010 年代のコースの長さの全体的な平均よりも実質的に長かった）、最も長いコースは 7,492 ヤードでした。きわめて最近のコース、あるいは改修プロジェクトが進行中のコースを検証すると、2018～2020 年の 11 のコースプロジェクトでは 100-600 ヤードの長さ

を追加し、いくつかのコースでは全長が 7,500 ヤードを超えるようになることを確認しており、同様にコースの長さを伸ばす傾向が継続していることを説明しています。より一般的には、近年の調査ではコース運営者の約 1/3 が過去 5 年間でショットの飛距離に対応して、コースを長くするためにティーボックスを移動させ、および/またはバンカーを改修したことを示しました。こうした事例が示すように、飛距離が伸び続けるとすれば、ゴルファーのすべての層にアピールする努力として、多くのコースはより長くなり続けると私たちは考えます。

18 ホールのゴルフコースを受け入れる全体の土地―「フットプリント（足跡）」と呼ばれることがあり、プレー区域、練習施設、管理が必要な自然の区域、池や湖、道路や通路、そしてクラブハウスや管理施設を含む―もまた長い間に大幅に大きくなってきました。例えば、1980 年より後に開場したコースは平均で 205 エーカーを超える占有である一方で、1900～1980 年の間に建設されたコースは平均で約 150 エーカーを専有していました。そのことはコースの長さが伸びたことと、特に最近数十年間における安全と責任への懸念、練習施設の拡張、そして不動産開発へのゴルフコースの一体化などのその他の要因の両方によってもたらされました。現在のより長いコースは一世紀前に建設されたコースよりも通常はより広い土地を必要とするので、古いコースでは、コースを長くしたり、練習区域を拡大することに対処するためには、より頻繁に土地の境界を拡大する必要があります。

より長く、より拡大したコースへという傾向の継続は、ゴルフへの経済的影響とその他の持続可能性への影響をもたらします。経済的な影響は単純です。新しいコースと改修したコースの両方の建設費はコースが長くなるほど増加します¹⁴。例えば、コースの長さの著しい増加に対する建設費の増加コストは数十万ドル（土地の取得費用は含まず）にもなり得るということをデータが示しています。より長いコースは年間の運営コスト（労働力、灌漑、化学薬品、拡大したフェアウェイ、ラフ、ティーイングエリアを管理する機器を含む）も通常はより高くなることを意味します¹⁵。さらに、ゴルフコースによるこうした臨海資源の使用は、インフレの強いコストアップ圧力（継続することが予期され、将来にエスカレートする可能性のある）と資源枯渇と供給力のへの高まる懸念の両方によって多くの地域で影響を受けます¹⁶。

コースの長さが伸びることは、長期的な持続可能性にも幅広い潜在的な影響を与えます。ゴルフというスポーツは、関連する下記の問題に対処する必要など、環境と自然資源への懸念の高まりと気候変動やそれに関連する規制活動に適応する必要性を認識しています。

- **水と化学薬品** 世界の水の供給は 2030 年までに需要予測の 40%が不足すると国連が予測しており、水の消費を制限して水質を維持しようという規制努力と共に、多くのゴルフコースでは水、肥料、除草剤、殺虫剤、殺菌剤の使用を減じるというプレッシャーが高まっています¹⁷。
- **土地利用** 多くの地域で人口増加と都市化が加速していることは、土地価格の高騰とオープンスペースの利用の努力の高まりに寄与しており、ゴルフコースの閉鎖（プランナーとディベロッパーはより良い土地利用を考えている）の原因となっています。一部の場所では、ゴルフコースへの土地利用のプレッシャーは砂漠化、海水面の上昇、海岸線の浸食などの環境課題によって深刻になっています¹⁸。

- **野生生物と生息環境保護** 絶滅危惧種やその住処の保護へのプレッシャーは多くの地域で高まっており、ゴルフコースに対して努力目標を示し、機会を与えています。よく管理されたコースは野生生物と授粉媒介者の住処の模範的な管理者となることが証明されており、現在ゲームがプレーされている管理された芝生の区域をプレーしない区域に転換したりすることを含み、それは様々な方法で成し得ます¹⁹。
- **エネルギー** 化石燃料消費に関連するこの問題はよく知られており、ゴルフコースでの管理車両や管理機器による燃料と潤滑油の使用は管理する芝地の総エーカー数を縮小することで減じることが可能です。

ゴルフコースの長さが伸びることやサイズが拡大することは、そうした経済的/環境的課題に寄与する多くの要因の一つというだけであることは確かであり、コース運営者はフェアウェイ、ラフ、その他の管理された芝地のために使われるエーカー数を減じるというような多くの解決策に目を向けることが増えています。とはいえ、他のすべての条件が同じであれば、より長いコースはその建設や管理によりコストがかかり、より広大な土地や資源を使うので、コースの長さはその解決策の重要な一部です。コースが長くなっていくという継続的な傾向は、コース運営者のコスト管理の支援の必要性、スポーツ全体が長期的な環境的プレッシャーに適応していくことの必要性、そしてコースが土地や資源をどのように使うのか、コースが地域コミュニティにどのように認識されるのかにますます影響を与える現実と矛盾するでしょう。

D. 飛距離を伸ばすことを重視することによる幅広い影響

たとえ上記で議論された具体的な問題を凌駕したとしても、飛距離とコースの長さが伸びていく長期的なサイクルは、私たちが不必要で、最終的にはゴルフの長期的な最大の利益と相容れないと考える飛距離への「一定の重視」を生み出すことを助長してきました。ゴルファーの新しい世代は以前の世代よりも必然的にゴルフボールを遠くに飛ばすという期待が多くの人にあると思われること、それに対応して、一部の人たちはすべてのゴルファーが球をより遠くに打つことができればできるほど、プレーするコースの長さが長くなればなるほど、ゴルフは本質的により良いスポーツになるという考え方でいることを私たちは観察してきました。そうした考え方は、ゴルフにおける飛距離は基本的に相対的な概念であるという点を見落としていると私たちは考えます。

上記で議論したように、ゴルフとは、様々なデザイン、パー、長さのホールで球をティーからホールに最も少ないストロークで入れるために、幅広くバランスの取れた技量のセットと判断を使うものです。このゲームの本質的特性と技量のテストは、ゴルフのショットやゴルフコースの絶対的な距離によるものではなく、飛距離とホールの長さの相対的な関係が最も重要なのです。全体的な飛距離の継続的な増加は、総じてゴルフをより良いゲームとすることはありません。例えば、ロングドライブの競技者が400ヤードを超えるくらい球を打つことができることは注目に値しますが、それに近いドライビング距離がプレーの標準となったり、コースの長さがそれに対応するために伸びたとしても、ゴルフはより良いスポーツにはなりません。同様に、平均的な男性ゴルファーが女性ゴルファーよりも遠くに球を打つことができるという事実は、男性がプレーするゴルフを女性がプレーするゴルフよりも本質的に良いゲームにすることはありません。

この相対的な飛距離の概念は非エリートゲームに幅広い影響を与えます。私たちは多くのレクリエーションゴルファーが相対的な自分の飛距離に対して必要以上に、より長い距離のティーからプレーしているという懸念を2つの観点から特定しました。

- **フォワードティー** 多くのコースで、最も前方のティーは、そのティーを通常使う多くのゴルファーの飛距離に対してとても長いです。例えば、アメリカのコースのフォワードティーの平均と中央値は 5,200-5,300 ヤードの範囲です²⁰。その結果、こうしたティーを使う多くのゴルファーは、彼らが最も遠くに飛ばせる最高のドライブとアプローチショットであっても、様々なグリーンを規定打数で捉える機会はほとんどないでしょう。したがって、同じホールで他のプレーヤーが得られるのと同じプレー体験を得ていません。
- **ティーの選択** より一般的に、多くの他のゴルファーは、自分で選んで、あるいはコースがそうしたティーの使用を特定したり、推奨しているからという理由のどちらかで、自分たちの飛距離に対して必要以上に長い距離のティーからプレーしていると私たちは考えます。その結果、そうしたゴルファーは自分たちの最も長いクラブで繰り返しアプローチショットをプレーすることが必要となり、良いスコアを得ることを難しくし、ラウンドをプレーするのにより長い時間をかけているかもしれません。

私たちはこうしたトピックの両方を見直し、すべての飛距離と技術レベルのゴルファーにとって適切な相対的なプレー距離についての情報とガイダンスを提供するつもりです。

最後に、今述べたように、飛距離の増加とより距離の長いティーのもう一つの影響は、距離の長いコースほど歩く距離も長くなり、プレーする時間がより多くかかるということです。プレーするためにかかる時間はすべてのレベルのゴルフにとって深刻な問題であり、コースが長くなると、歩く距離も長くなり、プレー時間も長くなります。研究では、コースの長さが 100 ヤード長くなると少なくともプレー時間は 1-1.5 分増える可能性があり、コースの特性とグリーンから次のティーまでの距離、次のティーまでプレーヤーが歩いて行かなければならない方向などの要因によって、より多くの追加時間となる可能性を示しています²¹。とても多くの人が時間への深刻なプレッシャーを感じる現代では、そうしたプレーのペースへの増分の影響ですら問題となり得ます。さらに、そうしたプレーのペースの影響は時間と共にコースの長さの増加が累積して大きくなったとき、長期的に 500 ヤードや 1,000 ヤードのコースの長さの増加になったときにより重大になります。

E. 結びの見解

上記に述べたすべての理由について、ますます伸びていく飛距離とゴルフコースのサイクルを打破し、ゴルフの本質的な挑戦を強化し、既存のコースとこれから作られるコースの両方の実行可能性を高める長期的な将来を築く作業に取り組む時であると私たちは考えます。この結論に至る際、「統轄団体は飛距離とコースの長さの継続的な増加の影響に対処するためにもっと多くのことをしたかもしれない」という意見が一部の人たちにあったことを私たちは認識しています。将来については常に不確実性があり、私たちに固有の役割の一部は経験から得られた教訓を取り入れ、進行中の開発の監視と評価を続け、対処すべき問題へのコンセンサスを得ることです。私たちの見解は将来に進化していく可能性があります。

るのと同様に、それまで見えなかった出来事が明らかになり、新しい情報が利用可能になるにつれて進化してきました。そして、このゲームの将来のために正しいことをするのに遅すぎることはないと思います。この長期的な視点をディスタンスインサイトプロジェクトに取り入れ、問題を一步離れて見ることによって、私たちはこの一連の問題をあらゆる観点から対処し、効果的で長期的な解決策を探究する立場にいると考えます。その結果、私たちは上記パート I.B に概説された次のステップを遂行していくつもりです。

¹ DIR at 20

² DIR at 7 (Table 1)

³ DIR at 21-22

⁴ DIR at 9

⁵ DIR at 24-33

⁶ DIR at 10-11

⁷ DIR at 11

⁸ DIR at 11

⁹ DIR at 15 (Figure 10) and 34

¹⁰ DIR at 39 and 46

¹¹ DIR at 39 (Figure 32)

¹² DIR at 39 (Figure 32)

¹³ DIR at 39 (Figure 32)

¹⁴ DIR at 63

¹⁵ DIR at 64-65

¹⁶ DIR at 65-67

¹⁷ DIR at 66-67

¹⁸ DIR at 67

¹⁹ DIR at 67

²⁰ DIR at 49-50

²¹ DIR at 67

USGA について

USGA はゴルフというゲームを称賛し、仕え、促進する非営利団体です。1894 年に創設され、私たちは U.S. オープンや U.S. 女子オープンを含め、ゴルフにおける最高峰のプロフェッショナルやアマチュアの多くの選手権を実施しています。The R&A と共に、私たちはプレー、用具、ハンディキャップ、そしてアマチュア資格のグローバルなセットを通じてこのスポーツを統括しています。ニュージャージー、リバティーコーナーにある USGA キャンパスは、科学とイノベーションが将来に向けた健全で持続可能なゲームを支持するこの協会の研究テストセンターの所在地です。このキャンパスは世界的に最も包括的なゴルフの遺物のアーカイブを収集することでこのゲームを称賛している USGA ゴルフミュージアムの拠点でもあります。さらなる情報は usga.org にアクセスしてください。

The R&A について

この文書における The R&A への参照は R&A ルールズリミテッドについて言及しています。スコットランド、セントアンドリュースに本拠地を構える The R&A と USGA は、それぞれ別の管轄下で運営しながらも、ひとつのゴルフ規則、アマチュア資格規則、そして用具基準を施行することで、共同してゴルフというスポーツを世界的に統轄しています。The R&A はアメリカ合衆国とメキシコを除く全世界でこのスポーツを管轄しており、159 のアマチュアやプロフェッショナルの団体の同意を得て、144 ヶ国で 3,600 万人を超えるゴルファーのために活動しています。The R&A はこれから先 10 年間でゴルフの発展のために 2 億ポンドの投資を行うことを目指しており、持続可能なゴルフ施設の開発と管理を含め、このスポーツが国際的に成長する支援を行います。さらなる情報は www.randa.org にアクセスしてください。